

国際文化交流特論： 越境する宗教とその可能性)

第9回：

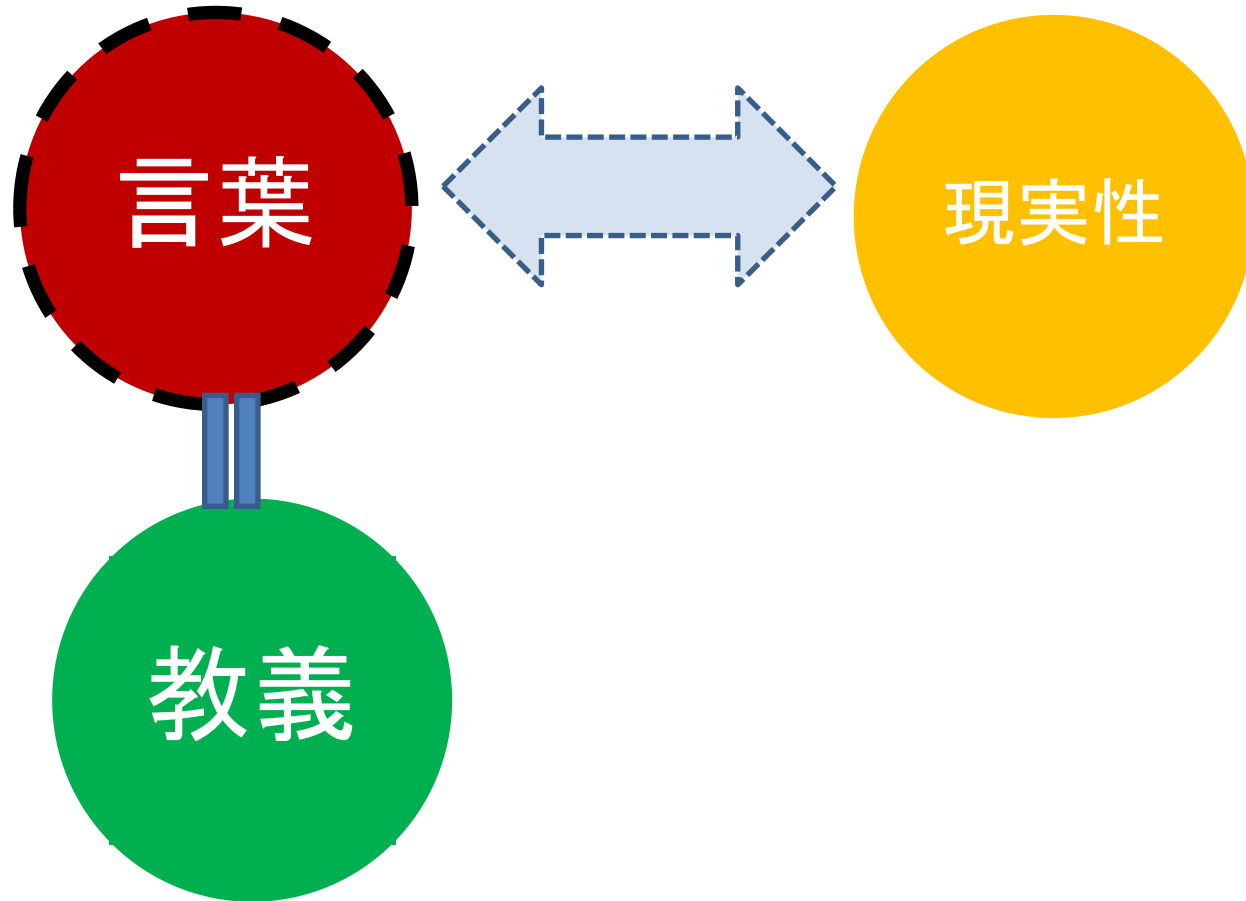
禅とキリスト教の融和

名古屋大学国際言語文化研究科
鈴木繁夫（教授）

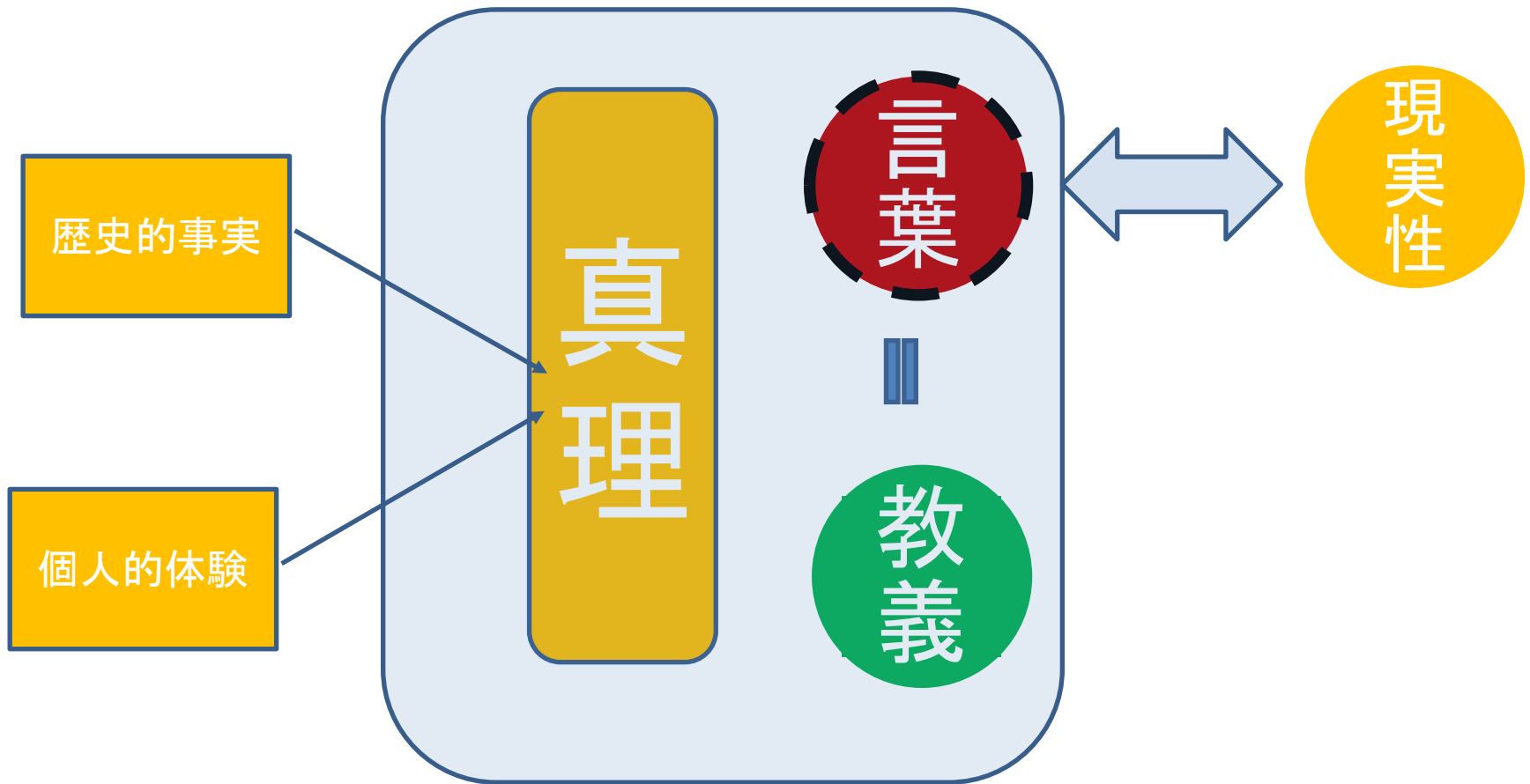
キリスト教の没落

- メッセージの無内容:使徒信経 4世紀頃
- 「我は天地の造り主、全能の父なる神を信ず。我はその独り子、我らの主、イエス・キリストを信ず。主は聖霊によりてやどり、処女(おとめ)マリヤより生れ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死にて葬られ、陰府(よみ)にくだり、三日目に死人のうちよりよみがえり、天に昇り、全能の父なる神の右に座したまえり、かしこより来りて、生ける者と死ねる者とを審きたまわん。我は聖霊を信ず、聖なる公同の教会、聖徒の交わり、罪の赦し(ゆるし)、身体のよみがえり、永遠(とこしえ)の生命(いのち)を信ず。」

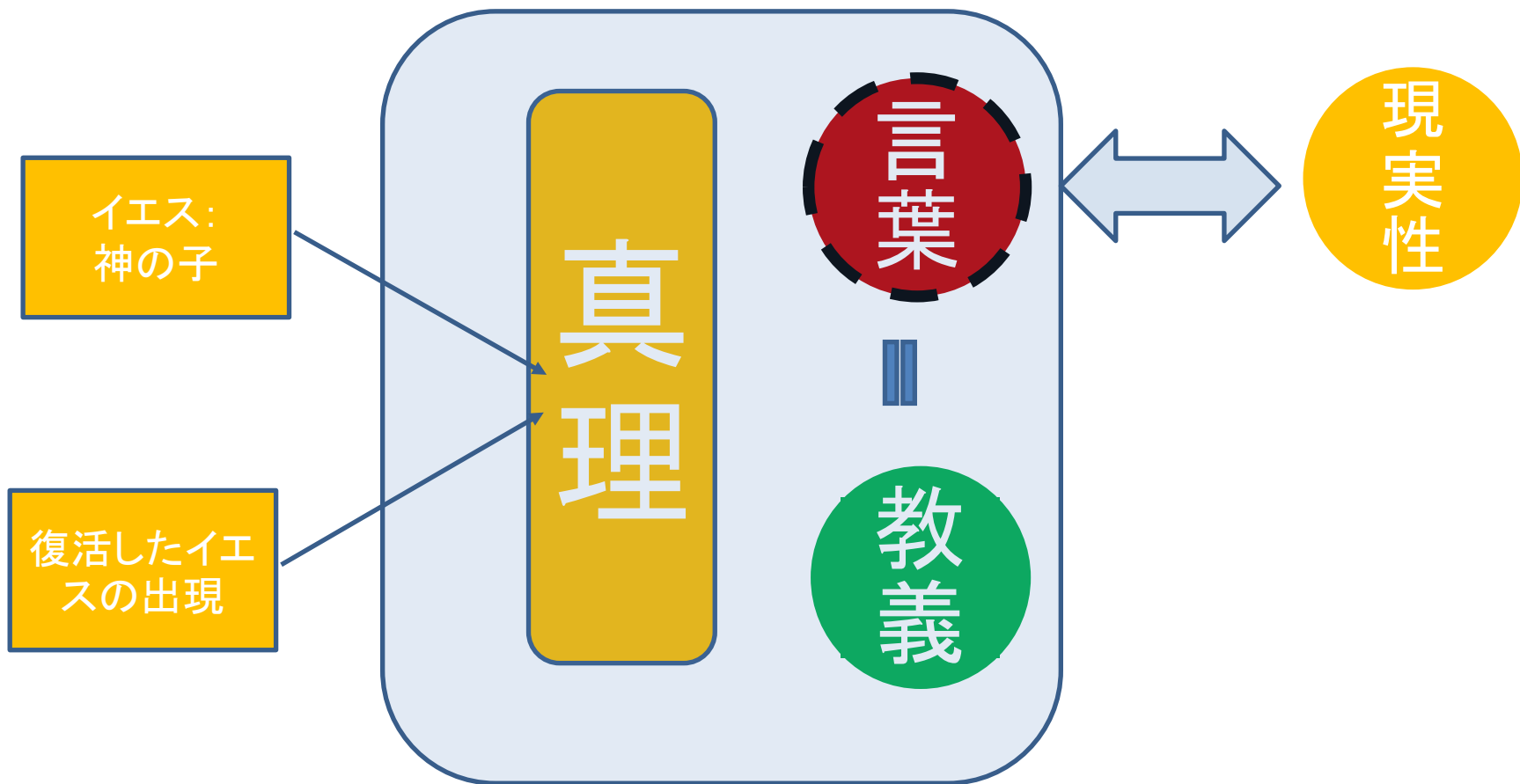
届かないキリスト教の言葉



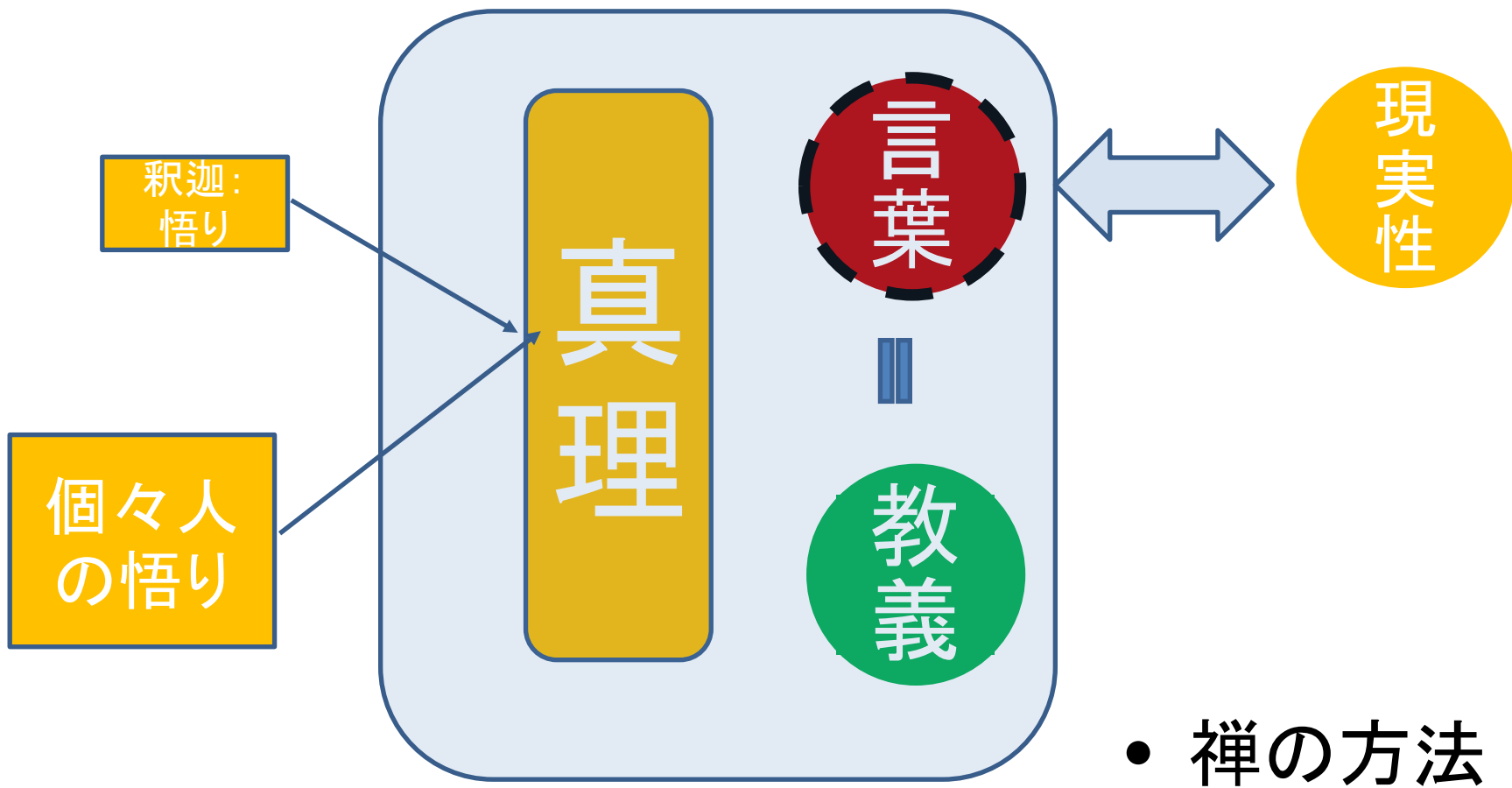
宗教の構造



キリスト教の歴史事実と個人体験

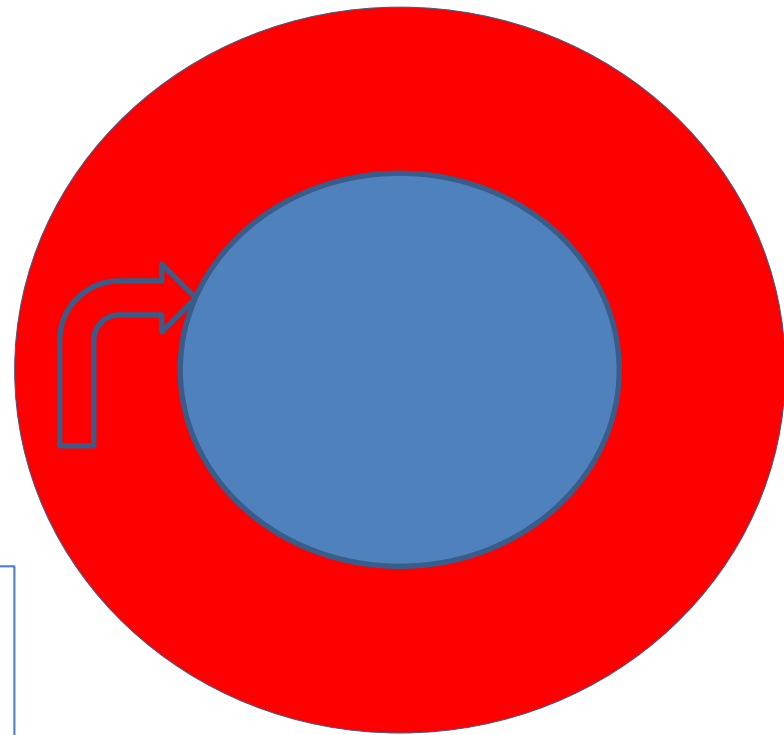


禪の悟り



正統と異端：中心と周縁

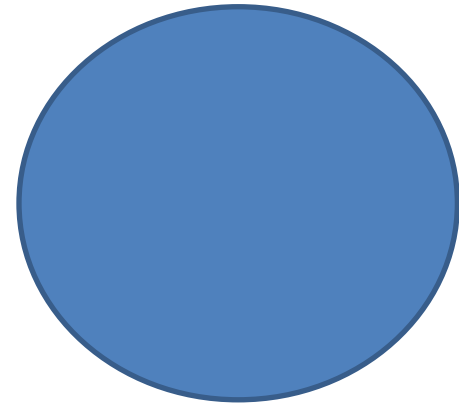
- 秩序の糜爛と活性化
 - 秩序／混沌
 - 中心／周縁
 - 表層／深層



不断の自己更新・
理想の自覚

秩序への欲求

- 人間の心理的欲求：自分たちは正常
 - 他の動物とは違う
 - 敵とは違う
 - よそ者とはさらに違う
- 「適切な」秩序づけ
 - 食物、性、衣服、世帯



中心と周縁の区別

- 中心と周縁：

- 自己を中心とした同心円
 - 「私」に対する「彼」、「我々」に対する「彼ら」、「この世界」に対する「あの世界」と

- 中心：「我々」の側において、秩序が支配

- すべては恒常的であり、起こりうることにどう対応してよいかもわかっている。
- 権力・政治・宗教・主流文化
- 権力者、エリートによって担われる優位の文化

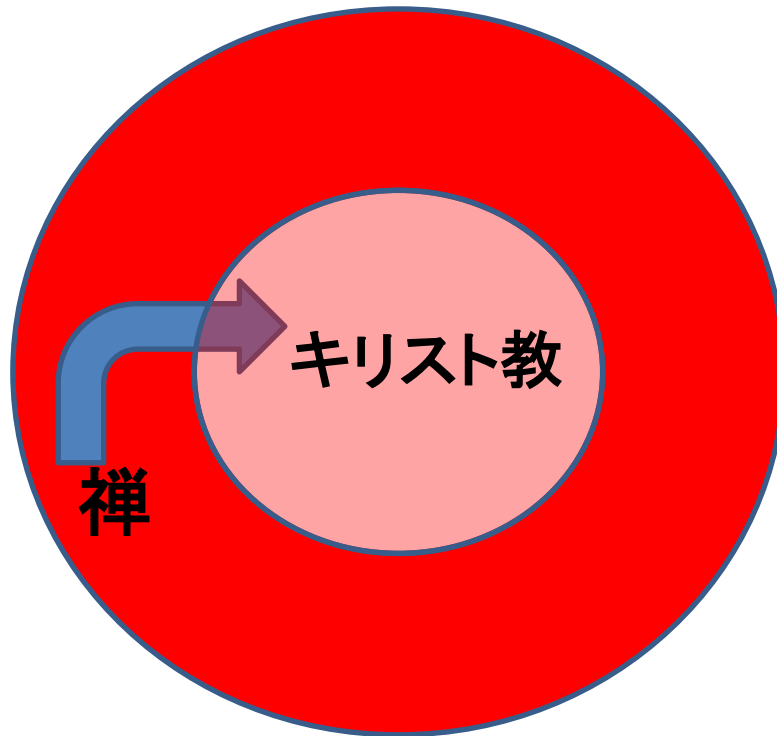
- 周縁：闇・不確定・不安

- 秩序に収まり切らない排除されたものであって、「彼ら」・「他者」・「異人」
- 抑圧されて対立する劣位の文化
- 劣位者—下層階級、被支配者、アウトサイダー—によって担われる。

中心と周縁の力動関係

- 中心と周縁の対立的緊張
 - 緊張を解消する手段
 - 儀式や祭儀などの象徴的文化装置
- 中心の活力が停滞・腐敗・弱体化
 - 周縁の活力が活性化する。
 - 中心と周縁とが逆点
- 境界性(Liminality)の表面化

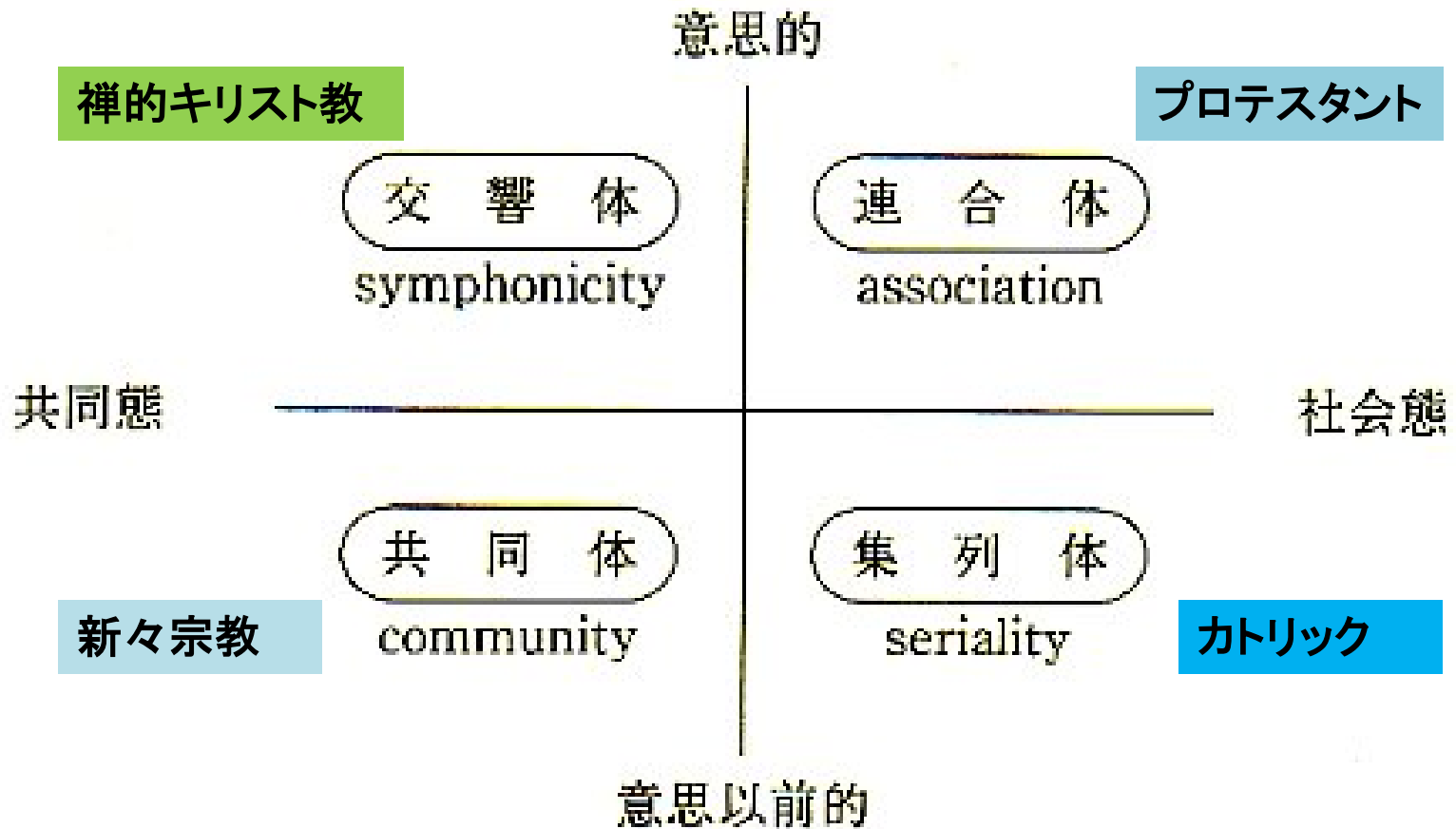
境界性(Liminality)の表面化



三つのルート

1. グローバル化(従来のキリスト教)を踏襲する。
2. 地域性(禅を取り入れたキリスト教)への踏み出す。
3. 交響体(禅的キリスト教, キリスト教的禅)を築く。

社会の四象限



- 見田宗介『社会学入門—人間と社会の未来』

＜禪キリスト者＞

1. あなたはキリスト教徒と見なしていますか。
2. 坐禪はあなたにどのような影響を与えましたか。

1:70%が「はい」

- 2: 1)「人格としての神」という意味が消えた。
2)イエスは悟りを得た者
3)教会から距離をとるようになった。

